
不幸人生鑑賞会

死霊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不幸人生鑑賞会

【Nコード】

N88500

【作者名】

死霊

【あらすじ】

不幸な人生を送った少年

父と母に感じた違和感

少年は最後に次の人生に希望を託す

しかしその願いは叶えられることはない。

だってこれは不幸人生鑑賞会なのだから

(前書き)

初投稿です。

おねがいします

考えていた

幼いころに感覚で感じた

母と父の少しの違和感

その時はまだ無知でその正体を知らなかった。

父が毎日のように飲み会に行くと言っていたのも

母が日曜日の夜、化粧を濃くして、その時は知らなかったがブラン

ド物のバックを持ち出して嬉しそうに出かけて行ったのも

そして二人して何かを疑うようなことをしていたのも

全部その時はそういうものだと思っていた。

『無知は罪なり』

その言葉は本当だと思う。

その時もつと世界を知っていたなら

常識を知っていたなら

こんなことにはならなかっただろう

今の僕ならわかる

あの時どうしていればよかったのか

でも今はもう遅い

「あなた、これは何」

母が父に写真を見せて聞く

そこには父と女性が楽しそうに話している所が映っていた

父は一瞬驚いた顔をしていたがすぐに平静を装い

「ただの女友達じゃないか」

と言った。

母はそれに怒るようにして

「じゃあこれは何よ!」

また写真を見せる

そこには父とさっきの女性が唇を合わせている、所詮キスと言う奴

をしている写真だった。

「こんなの調べて、楽しいか？」

父は母に問いかけるように言う。

父は浮気を認めたらしい。

「楽しいわけないじゃない。辛いよ」

母が言う

でもそれほど辛そうには見えない。

「慰謝料をもらいます」

母は必死に隠しているだろうが、少し楽しそうだ

父は少し考えた後

「楽しそうじゃないか。不倫相手にでも貢ぐのか」

と聞いた。

「なんの証拠があつてそんなことを言うのですか」

母は父ほど冷静ではなかつたらしい。

少しあわててるのがわかる。

「疑うには十分だと思つな、何故か減っている貯金、日曜日の夜に

化粧して出かける。知らない車で帰ってくる。よくばれないと思っ

ていたよな」

父は淡々と告げる

母は焦りを通り越して怒りを感じているようだ

「あなたが浮気なんてするからじゃない！」

母は思いついたようにいった。

僕から見たら浮気をし始めたのは同じ時期だったよな気がする。

滑稽なものだ

ミイラ取りがミイラに

とでも言っておこうか。

口喧嘩はどんどん続く

父は淡々と

母は激高しながら

自分より相手が悪いと主張し続ける

そして

ついに父は母に手を上げた

頬に平手打ちを一閃

母はそれに答えるように近くにあつた棒で父の頭をたたく

しかし父は倒れることなくまた母を叩く

そしてどんだんエスカレートしていく

そして母が

「あなたなんかと結婚しなければよかった。貴方も息子も皆死んじやえばいいのよ」

そう言つて父の頭に棒を何度も打ち付ける。

父はもう死んでいるだろう

そこで僕は何か切れた

盗み見するのをやめ母の元へ行く

「どうしたの」

母は淡々と言う

もう狂っている

僕はいつの間にか持っていた包丁で母を刺した。

何度も

何度も

それこそ原型がなくなるまで

また生まれ変わったとしたら

今度は同じ過ちを繰り返さなくて済みますように

そう何処かにいるかもしれない神様にねがい

自分の首にナイフを突き刺した。

純白の空間である青年がテレビのようなものを見ていた

「今回の人生はまあまあだったな」

青年は笑う

「まあ人間は何するか分からないから、こういうのも一興だろう。」

泣いて絶った時よりはは面白い。」

青年は笑う

ひどく楽しそうに笑う

「最期、同じ過ちを繰り返さないで済みますように、だってよ。過ちの問題じゃねえのにな」

青年は笑う

ひどく楽しそうに笑う

狂ったように笑う

「お前は何度転生しよう和幸福な人生しか送れねえのにな。それもそんな人生にした神様に願うなんてお門違い甚だしいぞ。」

青年は笑い続ける

青年が見ているテレビのようなものには

不幸人生観賞会

と、書いてあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8850o/>

不幸人生鑑賞会

2010年11月13日14時52分発行